日本免疫毒性学会　2016 年　総会　兼　評議員会　議事録

日時：2016 年 9 月 6 日　13：10～13：55
於　：北九州国際会議場国際会議室

1．理事長挨拶：吉田理事長
台風 12 号の影響が心配されたが，無事に集まることができて嬉しく思う。また森本年会長には立派な学術年会の開催に感謝する。本学会も，国際協力や他の学会との連携，さらに国内外の種々の機関からの委託事業など多方面に渡って業務展開しているとともに，世代交代などの課題も生じてきている。更なる活性化に向けた議論を期待している。

2．報告事項

1）事務局報告：大槻総務担当理事

(1) 会員動向

- 現在 206 名，緩やかではあるが漸減傾向にある。また 3 年間会費未納による自動退会処理も毎年 6～7 名存在する。現在，理事 22 名，評議員 53 名体制であるが，評議員については 8名が 9 月末で退任あるいは辞任されることになっており，審議で新評議員候補については検討いただくが，2 名の追加が予想され，10 月以降は 47 名体制となる。

(2) 会費納入状況

- 例年 16-17%の未納がある。今年度は現状では 32%の未納率であり，年会会場あるいは 10 月の会員登録内容確認の際に再請求をする。また昨年 10 月より ATM あるいはネットバンキングでの支払いも可能とした。

(3) バナー状況

- 現在 2 社である。半期 3 万円であり，1 社増えることは，全体会計の中でも重要であるので，今後共知己の企業等の紹介をお願いしたい。

2）学術年会報告

(1) 第 22 回@京都：高野前年会長（代：大槻理事）

- 109 名の参加で，盛会裏に終了した。感謝を申し上げる。

(2) 第 23 回@北九州（資料 p7）：森本年会長

- 台風が心配されたが天候は大丈夫そうである。市民公開講座を本理事会と同時並行して実施しているが，100 名以上の参加者もあり，北九州市長の挨拶もあった。
- 会期中，活発な討論等，ぜひ，よろしくお願いしたい。

(3) 第 24 回@十和田：中村次期年会長

- 2017 年 9 月 4～5 日（月～火）で開催。
- テーマは『「免疫亢進」と「免疫抑制」の新たな考え方』。年会は北里在学獣医学部の教室で実施する。
- 特別講演については SOT-ITSS との交流事業として，ITSS 窓口担当である Dr. Cohen も了解し，本人（Dr. Dearman R）にも連絡したところである。
- シンポジウム，その他の企画セッションについてはまだ案である。
- ランチョンも例年の 2 社にお願いすることになっており，その他総会，授賞式等，実施予定である。
- 交通については新幹線なら八戸あるいは七戸十和田であるが路線バスは便数が少ない。三沢空港から乗り合いタクシーあるいはレンタカーなどが最適かも知れない。市街地に宿は十分にある。

3）委員会報告

(1) 学術・編集委員会：野原委員長

- 資料に記載の通り，ニュースレターの編集委員長が新藤先生に代わり，フォーマット使用許可を得て印刷費が不要となった。藤巻委員から黒田悦史評議員に委員の交代が行われた。昨年の年会時のアンケートは WEB に掲載済み。回答が少なかったので本年度は実施しない。ニュースレターは計 2 号無事発刊済みである。
- 米国 SOT-ITSS の Newsletter への JSIT メンバーからの投稿。初回は吉田理事長に依頼済み。年 3 回の発刊と思われるが，締切日が分かった方が対応し易いので確認する。500 語前後の投稿を予定しており，英文校正料については学会からの支出の予定である。
- 中村理事より，既に Dr. Cohen には連絡済みで，ITSS 編集委員に連絡中（また会期中に今回の年会に招聘した Dr. Johnson とも連絡をしてみる）。また WEB ではオープンアクセスになっているので，JSIT の会員への転送も問題ない。
- **試験法委員会（あるいはワークショップ）のまとめの掲載も考慮する。**
- 学会賞・奨励賞選考小委員会（委員長・手島理事）
  - 学会賞・小坂忠司理事，奨励賞・小島弘幸評議員に決定し，本総会後に授賞式と受賞講演を実施予定である。
- 日本毒性学会との連携
  - 2016 年度は高野理事の教育講演を合同開催として実施した。
  - 2017 年度も教育講演を合同開催とし，黒田悦史評議員を候補としタイトルも含め，既に決定した。

(2) 広報委員会：大槻委員長

- WEB をリニュアルしスマホなどでもアクセス可能とした。
- J Immunotoxicol の WEB へバナー掲載してもらうとともに，発刊アラートをメーリングリスト（ML）で転送している。本雑誌は実質的に ITSS の機関誌的な役割でもあり IF も 2 以

上であり，JSIT 会員も編集委員になっている。
- ML は月平均 2 回の配信であり，WEB も適宜更新中である。

(3) 試験法委員会：久田委員長
- 試験法ワークショップはAOPについての概説と実際であり，7 日に開催する。
- JaCVAM 皮膚感作性試験資料編纂委員会は一定の活動を終え，完了予定である（筒井理事からの報告）。
  - JaCVAM の委員会については牧栄二名誉会員から井上理事に交代した。
  - MITA 法のバリデーション開始のキックオフ会議に井上理事が出席する。
- AOP 委員会の活動の詳細は今回のワークショップで報告がある。AOP の位置付けやゴールなどでの論議も行われた上で，ワークショップにて詳細が報告検討されることが確認された。

(4) 国際化委員会；中村委員長
- JSIT 会員の SOT 年会への派遣について
  - 2016 年の SOT @ New Orleans では，JSIT から弘前大学・吉田光明教授を派遣し，Dr. Cohen M ともに Disasters Health Environmental Impacts of Manmade and Naturally Released Toxicants としてシンポジウムが開催され，聴衆も多く無事に終了した。
  - 2017 年の SOT @ Baltimore では，斎藤理事と Dr. Bussiere J による The Skin as a Metabolic and Immune-Competent Organ: Implications for Pharmaceutical Development and Safety Assessment が採択され準備中である。
  - 2018 年の SOT @ San Antonio については，吉岡靖雄評議員と相談しており Safety and Efficacy of Vaccines というテーマを提出する方針で検討している。
- ITSS からの JSIT への招聘
  - 2016 年は 7 日の特別講演で Dr. Johnson J（プログラム参照）である。
  - 2017 年は準備報告にあったように Dr. Dearman R で調整中である。

4）事業報告：吉田理事長

配布資料に沿って紹介され，承認された。

3．審議事項（以下の議案について，全て承認された）

1）会計：斎藤総務担当（会計）理事

(1) 2015 年度決算案
- 資料に沿って説明された。
- 会費決算の増収は未納過去年度分の納入による。
- AOP 委員会について，調査費と委託費の関係で，後納入と前納入があったため，実質 2 年度分が 2015 年度会計の収入に計上された。
- 支出の AOP 関係で委員謝礼 QUO カードは 1 人 1 万円。また AOP 報告を WEB に掲載するということで WEB 作成費の一部を支出しているので，AOP 委員会からはぜひ掲載（前述のニュースレターへの掲載でも可能なので）をお願いする。

(2) 2015 年度会計監査報告：小島監事
- 資料を参照に，適切に処理されていることを確認の報告がなされた。

(3) 2017 年度会計予算案：斎藤
- 資料を参照に，説明が行われた。今年度も含めて，AOP 委員には QUO カード配布予定であることも報告された。

2）人事（資料 p27）：大槻総務担当理事

(1) 理事
- 評議員による投票とともに，運営委員会で本学会の更なる活性化と世代交代の推進を考慮舌上で，資料の再任 13 名および新任 8 名の理事候補者が選出された。

(2) 名誉会員
- これまでの本学会への貢献を考慮し，澤田純一理事ならびに小島幸一監事を名誉会員が推薦され承認された。

(3) 評議員
- 坂入鉄也会員と石井明子会員が，それぞれ評議員 2 名以上の推薦を受け評議員候補として挙がり，承認された。

(4) 2018 年会長
- 運営委員会にて野原恵子理事を次々期年会長として理事会に推薦する由，報告された。
  野原次々期年会長候補より，つくば国際会議場で開催する予定であるが会場の予約状況から 2018 年 9 月 18～19 日（月～火）が最適と思われるので，これで実施したい由，報告され，承認された。

(5) 2016 年 10 月かｒなお一期三年の新理事長
- 新理事候補者の互選により吉田貴彦現理事長の再任となり，報告された。

3）事業計画：吉田理事長

資料に沿って紹介され，承認された。

第 24 回日本免疫毒性学会学術年会の案内
- 中村次期年会長により，概要と案内，さらに十和田周辺の交通の照会や観光の案内があった。2017 年 2017 年 9 月 4 日（月）～5 日（火），会場は里大学獣医学部Ｂ棟 1 階講義室で行われる。

第 25 回日本免疫毒性学会学術年会の案内
- 野原次々期年会長により，2018 年 9 月 18 日（火）～19 日（水）でつくば国際会議場にて実施の予定であることが報告された。

2016年　日本免疫毒性学会　総会兼評議員会

2016年9月6日　@北九州国際会議場

議事次第

Ⅰ．理事長挨拶
Ⅱ．報告事項
1．事務局報告
1) 会員動向
2) 会費納入状況
3) バナー現状
2. 学術年会報告
1) 第22回開催報告
2) 第23回開催報告
3) 第24回開催準備状況
3. 委員会報告
1) 学術・編集
(1) Newsletter
(2) 学術年会アンケート
(3) 学会賞・奨励賞選考小委員会
(4) 日本毒性学会との連携
2) 広報
(1) WEB: リニュアル
(2) メーリング・リスト
(3) J Immunotoxicol との連携
3) 試験法（久田先生）
(1) ワークショップ
(2) JaCVAM皮膚感作性試験代替法資料編纂委員会
(3) AOP委員会
4) 国際化
(1) 米国SOT/ITSSとの合同企画
i 第55回SOT (2016) @New Orleans
ii 第56回SOT (2017) @Baltimore
iii 第57回SOT (2018) @San Antonio
(2) 日本免疫毒性学会学術年会への招聘
i 第23回JSIT (2016) @北九州
ii 第24回JSIT (2017) @十和田
4．事業報告（吉田先生）
Ⅲ．審議事項
1．会計
1) 2015年度決算案
2) 2015年度監査報告
3) 2017年度予算案
2. 人事
1) 名誉会員
2) 理事
3) 評議員
4) 2018年年会長
3．事業計画案
4．その他
5．次期年会長挨拶
6．次々期年会長挨拶

会　員	2007.4.16	2008.4.15	2009.4.1	2010.4.1	2011.4.1	2012.4.1	2013.4.2	2014.4.8	2015.4.7	2016.4.7	2016.6.27	2016.8.29
会員総数	253	223	232	231	240	237	221	210	207	205	205	206
一般会員	238	214	219	219	224	222	209	197	190	189	191	192
学生会員	12	6	7	7	10	9	6	5	9	8	6	6
賛助会員	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
名誉会員	3	3	5	5	6	6	6	8	8	8	8	8
住所不明による休会扱い	14	2	3	4	6	3	1	0	0	1	1	1
会費納入義務者数 一般会員／学生会員	225/11	212/6	217/7	215/7	218/10	219/9	208/6	197/5	190/9	188/8	190/6	191/6

入会･退会者	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016.8.29
入　会	16	25	25	24	19	12	12	15	14	8
退　会	53 (36)	15 (3)	25 (5)	18	20 (8)	26 (12)	21 (5)	15 (7)	26 (7)	7 (6)

（ ）内は会費滞納により退会処理した会員数

役　員	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016.8.29
理　事	21	21	21	22	22	22	22	22	22	22
評議員	48	55	58	49	49	54	47	47	54	53
監　事	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2

会費納入状況	2007.3.31	2008.3.31	2009.3.31	2010.3.31	2011.3.31	2012.3.31	2013.3.31	2014.3.31	2015.3.31	2016.3.31	2016.8.29
未納なし	175	197	209	206	198	190	191	174	171	163	134
未納あり	75	23	18	21	27	36	39	35	36	33	64
合　計	250	220	227	227	225	226	230	209	207	196	198

なお「登録確認票」には会費納入状況が記載されており、納入済みの年度には●丸が入れられています。会費未納ありの記載がある方は、同封の払い込み用紙にて納入して下さいますようお願い申し上げます。

また、ATM・ネットバンキングを利用しての振込みも可能です。振込みは下記にお願い致します。振込み人の名前と会員番号が分かるようにして下さい。

ゆうちょ銀行（金融機関コード　9900）
店名：二七九（ニナナキユウ）店　　店番：279
預金種目：当座　　口座番号：0094411

参加：109名
テーマ：免疫毒性の新たな視点
　－毒性影響とかく乱影響－
年会賞
　　国立感染症研究所
　　佐々木 永太　先生
学生･若手優秀発表賞
　　医薬基盤･健康･栄養研究所
　　日下部 峻斗　先生

第24回日本免疫毒性学会学術年会
The 24th Annual Meeting of the Japanese Society of Immunotoxicology

主催：　日本免疫毒性学会
共催：　日本産業衛生学会アレルギー・免疫毒性研究会
協賛：　日本毒性学会，日本毒性病理学会，日本衛生学会，日本臨床環境医学会（予定）
後援：　日本アレルギー学会（予定）

日程：　2017年9月4日（月）～5日（火）

会場：　北里大学獣医学部Ｂ棟１階講義室
（青森県十和田市東十二番町３５－１）

テーマ：「免疫亢進」と「免疫抑制」の新たな考え方」
New perspective of “immunoenhancement” and “immunosuppression”

年会長：　中村和市（北里大学獣医学部）
事務局長：　鎌田　亮（北里大学獣医学部）
運営事務局：株式会社 仙台共同印刷
（仙台市宮城野区日の出町二丁目4-2）

内容：
特別講演（案）
発表者：Rebecca Dearman, University of Manchester
表　題: Epidermal microenvironment and innate immune system in skin allergy
教育講演
学会賞，奨励賞 受賞講演
一般演題，ポスターセッション
シンポジウム（案）：
「アレルギーと自己免疫は免疫亢進によるものか？」，
「不妊と子癇」
試験法ワークショップ
「バイオ医薬品の免疫毒性評価法の課題」（仮題）
ランチョンセミナー
日本チャールス・リバー（株），ハンティンドン ライフサイエンス（株）

年会賞，学生・若手優秀発表賞 授賞式

総会

懇親会（9月4日）

委員会報告

I.　学術・編集委員会（委員長・野原理事）

1．委員の交代
　退任・藤巻理事　　新任・黒田評議員

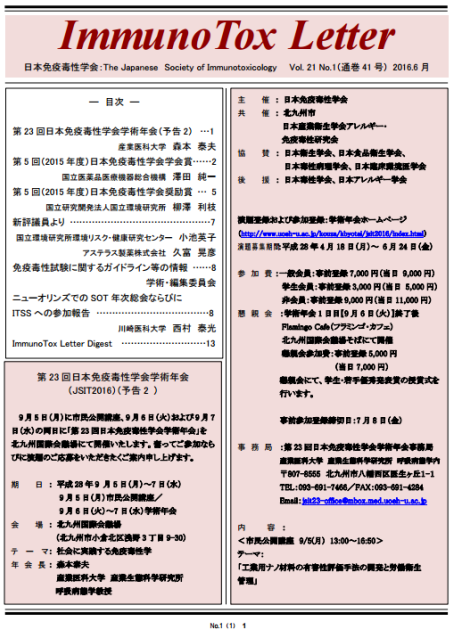
2．ニュースレター：　ニュースレター編集長・新藤評議員
　発刊：2015年12月＆2016年6月

3．前回年会時アンケート：
　WEBとニュースレターに掲載

4．米国SOT-ITSS　Newletterへの投稿について

5．学会賞・奨励賞選考小委員会（手島小委員長）
　　総会後に授賞式と受賞講演

6．日本毒性学会との連携
　1) 第43回学術年会@ウィンクあいち（2016）
　　教育講演２→合同教育講演
　　高野理事「環境化学物質によるアレルギー悪化」
　2) 第44回学術年会@パシフィコ横浜（2017）
　　合同企画日本免疫毒性学会会員からの教育講演予定



ImmunoTox Letter

日本免疫毒性学会：The Japanese Society of Immunotoxicology　Vol. 21 No.1（通巻 41 号）2016.6 月

— 目次 —

第 23 回日本免疫毒性学会学術年会（予告 2）…1
産業医科大学　森本 泰夫
第 5 回(2015 年度)日本免疫毒性学会学会賞……2
国立医薬品医療機器総合機構　澤田 純一
第 5 回(2015 年度)日本免疫毒性学会奨励賞 … 5
国立研究開発法人国立環境研究所　柳澤 利枝
新評議員より ……7
国立環境研究所環境リスク・健康研究センター　小池英子
アステラス製薬株式会社　久富 晃彦
免疫毒性試験に関するガイドライン等の情報 ……8
学術・編集委員会
ニューオリンズでの SOT 年次総会ならびに
ITSS への参加報告 ……8
川崎医科大学　西村 泰光
ImmunoTox Letter Digest ……13

第 23 回日本免疫毒性学会学術年会
（JSIT2016）（予告 2 ）

9 月 5 日（月）に市民公開講座、9 月 6 日（火）および 9 月 7 日（水）の両日に「第 23 回日本免疫毒性学会学術年会」を北九州国際会議場にて開催いたします。奮ってご参加ならびに演題のご応募をいただきたくご案内申し上げます。

期　　日：平成 28 年 9 月 5 日（月）～7 日（水）
　　9 月 5 日（月）市民公開講座／
　　9 月 6 日（火）～7 日（水）学術年会
会　　場：北九州国際会議場
　　（北九州市小倉北区浅野 3 丁目 9-30）
テ ー マ：社会に貢献する免疫毒性学
年 会 長：森本泰夫
　　産業医科大学　産業生態科学研究所
　　呼吸器疾患学教授

主　　催：日本免疫毒性学会
共　　催：北九州市
　　日本産業衛生学会アレルギー・
　　免疫毒性研究会
協　　賛：日本衛生学会、日本食品衛生学会、
　　日本毒性病理学会、日本臨床検査医学会
後　　援：日本毒性学会、日本アレルギー学会

演題募集および参加登録：学術年会ホームページ
（http://www.uoeh-u.ac.jp/home/jbrotal/jsit2016/index.html）
演題募集期間：平成 28 年 4 月 18 日（月）～ 6 月 24 日（金）

参 加 費：一般会員：事前登録 7,000 円（当日 9,000 円）
　　学生会員：事前登録 3,000 円（当日 5,000 円）
　　非会員：事前登録 9,000 円（当日 11,000 円）
懇 親 会：学術年会 1 日目［9 月 6 日（火）］終了後
　　Flamingo Cafe（フラミンゴ・カフェ）
　　北九州国際会議場そばにて開催
　　懇親会参加費：事前登録 5,000 円
　　（当日 7,000 円）
懇親会にて、学生・若手優秀発表賞の授賞式を行います。

事前参加登録締切日：7 月 8 日（金）

事 務 局：第 23 回日本免疫毒性学会学術年会事務局
　　産業医科大学　産業生態科学研究所　呼吸器疾患学内
　　〒807-8555　北九州市八幡西区医生ヶ丘 1-1
　　TEL.：093-691-7466／FAX：093-691-4284
　　Email：jsit23-office@mbox.med.uoeh-u.ac.jp

内　　容：
＜市民公開講座　9/5(月)　13:00～16:50＞
テーマ：
「工業用ナノ材料の有害性評価手法の開発と労働衛生管理」

No.1（1）1

学会賞
「農薬の免疫毒性作用」

演者：小坂　忠司　（残留農薬研究所　試験事業部）

奨励賞
「環境化学物質による核内受容体を介した免疫毒性作用」

演者：小島　弘幸（北海道立衛生研究所　生活科学部）

委員会報告

Ⅱ．広報委員会（委員長・大槻理事）

1. WEB・リニュアル（スマホでも閲覧可能）
2. J Immunotoxicology との連携
   1）WEBサイトにバナー掲載
   2) 発刊アラートのメーリングリストでの転送
3. Mailing List
   前回学術年会以降24回の配信
4. WEB更新（適宜）

委員会報告

Ⅲ．試験法（委員長・久田理事）

1. ワークショップ：プログラム参照
2. JaCVAM皮膚感作性試験資料編纂委員会

国立医薬品食品衛生研究所よりJaCVAM資料編纂委員会（旧称；第三者評価委員会）として業務を委嘱され，皮膚感作性試験代替法について調査及び評価を実施中.

1）委員会メンバー（敬称略）：安達玲子（国立医薬品食品衛生研究所），小島幸一（食品薬品安全センター），佐藤一博（福井大学医学部），武吉正博（化学物質評価研究機構），森本隆史（住友化学），金澤由基子（食品薬品安全センター），筒井尚久（田辺三菱製薬）

2）第13回会議（2月17日）
① h-CLAT評価報告書ドラフト案の作成継続

3）第14回会議（6月8日）
① h-CLAT評価報告書最終版の作成完了
② JaCVAM評価会議での報告は，7月5日の予定
③ 現在の委員会メンバーによる会議は今回で最後とし，JaCVAM評価会議のコメントを受けての評価報告書の修正作業はメールで行うことにした

4）IL-8レポーターアッセイpeer review会議（1月28日，2月23日：電話会議）：武吉委員及び筒井委員が参加
① バリデーションレポートとピアレビューレポートを最終化

※JaCVAMの委員会　牧栄二先生から井上智彰先生に交代。
※MITA (Multi-Immuno Tox Assay) 法のバリデーション開始のためのキックオフ会議（2016年6月）に，本学会を代表して井上理事（中外製薬）が参加。

3. AOP委員会（委員長・串間評議員）

- JaCVAM の要請により，OECD のAOP プロジェクトに参加し，免疫抑制に関するAOP 作成を最終目的として，異なるタイプの免疫抑制剤による免疫抑制に関するAOP の事例を作成する。
- 現在はその第一段階として，FK506-FK506 binding protein12 (FKBP12) 複合体形成に起因する免疫抑制に関するAOP事例を作成している。
- 8 名の学会員有志の協力を得てAOP 検討小委員会を組織して，昨年10 月から文献調査を開始し，日本語版を年初に，英語版を本年3 月末に作成した。
- 4 月には，OECD AOP プロジェクトに本AOP 事例作成が登録され（AOP No.154），AOP Wiki を介してOCED のAOP データベースに登録した後，internal 及びexternal レビューを受ける予定になっている
- 事例登録においては，情報が不足していることが判明し，追加調査を実施しているが，8 月末までに登録を終了する予定である。

2015 年　12 月25 日：AOP 事例日本語版検討（対面会議）
2016 年　1 月15 日：AOP 事例日本語版ドラフト最終化
　　1 月29 日：AOP 事例日本語版最終化
　　2 月 5 日：AOP 事例英訳ドラフト提示
　　2 月25 日：AOP 事例英訳検討（対面会議），最終化
　　4 月24 日：AOP Wiki に本AOP が登録（AOP No.154），AOP 入力用の文書検討を開始
　　8 月末：AOP Wiki に登録終了
その後，Internal review，external review を受ける

Ⅳ．国際化（委員長・中村理事）

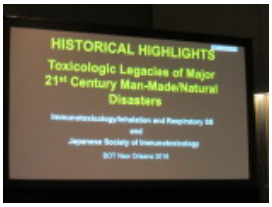
(1) 米国SOT/ITSSとの合同企画

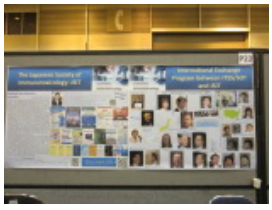
i) **第55回SOT (2016) @New Orleans**

JSITからの派遣：吉田光明　弘前大学教授

2016年3月13日～17日，New Orleans）
Historical Highlights Session: Toxicologic Legacies of Major 21st Century Man-Made/Natural Disasters Health and Environmental Impacts of Manmade and Naturally Released Toxicants（3月14日）
推薦部会: Immunotoxicology Specialty Section, Inhalation and Respiratory Specialty Section
座長: Mitchell D. Cohen（NYU），吉田光明（弘前大学）
演題および発表者：

① Introduction. M.D. Cohen.
② Pulmonary/Immunotoxicologic Impacts of the WTC Disaster. M.D. Cohen.
③ Immuno-Toxicologic Impacts of the Fukushima Disaster. M. Yoshida. Hirosaki University. Sponsor: M.D. Cohen.
④ Great California Wildfires of 2008: A Bigger Problem Than Burned Trees. J.A. Last. UC Davis Medical School
⑤ Adverse Respiratory Impacts of Hurricanes Katrina and Rita. R.J. Rando. Tulane University. Sponsor: M.D. Cohen.
⑥ Integrating Health and Toxicology Research into Disaster Responses: The New NIH Disaster Research Response (DR2) Project. A. Miller. NIEHS, NIH.
⑦ Moderated Discussion Among the Participants and Attendees. M. Yoshida. Sponsor: M.D. Cohen.





Glbal Galley/JSIT

2）**第56回米国トキシコロジー学会年会**（2017年3月12日～16日，Baltimore）

SOT ISS と共同提案していた以下のシンポジウム企画が，SOT のScientific Program Committeeによって仮採択された。時間は165分間である。今後，決められた期限に従って，発表者の情報等の微修正や要旨の提出を行えば採択される見込みである。

表題：**The Skin as a Metabolic and Immune-Competent Organ: Implications for Pharmaceutical Development and Safety Assessment**

推薦部会:　**Immunotoxicology Specialty Section**, Dermal Toxicology Specialty Section, Regulatory and Safety Evaluation Specialty Section

座長:　**Yoshiro Saito**, Jeanine Bussiere (Amgen)

発表者および演題：

① **Yoshiro Saito (Japan: SOT member):** Introductory talk: the skin as a target for immune-mediated drug hypersensitivity (what are the issues we're seeing in the clinic/patients)

② Amy Sharma (US: SOT Member): Hypersensitivity and skin reactions: case study with Nevirapine

③ Jack Utrecht (Canada: SOT Member): Drug Metabolism and Immune Responses in the Skin

④ Dean Naisbitt (UK: Non-Member): Towards the development of a novel T-cell priming assay to screen for skin sensitization potential

⑤ Shuen-lu Hung (Taiwan: Non-member) Direct interaction between HLA-B and carbamazepine activates T cells in patients with Stevens-Johnson syndrome

3）**第57回米国トキシコロジー学会年会**（2018年3月11日～15日，San Antonio）

SOT ISS との共同提案シンポジウム企画（案）

表題：Safety and efficacy of vaccines

推薦部会: Immunotoxicology Specialty Section

2．日本免疫毒性学会学術年会への招聘

1）　第23回日本免疫毒性学会学術年会（2016年9月6日～7日，北九州）:プログラム参照

2）　第24回日本免疫毒性学会学術年会（2017年9月2日～3日，十和田）

特別講演（案）発表者：

Rebecca Dearman, University of Manchester

表題:

Epidermal microenvironment and innate immune system in skin allergy

日本免疫毒性学会事業報告（2015年10月から2016年9月まで） 2016年9月6日

１．はじめに

日本免疫毒性学会は、その前身である免疫毒性研究会として発足以来、2013年に第20回記念の学術大会を経て、あらたな歩みを進めています。この間、免疫学と毒性学の双方に係わる異分野の研究者の方々の情報収集と意見交換の場として、極めて学際的な学会として機能して参りました。今後も、その特色である先進性と応用性のある研究動向を維持しつつ、会員にとって有益な学会となることをめざし、環境、食品、医薬品等、人の健康に係る諸要因に対して免疫毒性学的な観点から研究活動を展開し、国民の健康保持増進に貢献して参りたいと考えています。

そのためには、学会の運営基盤の一層の強化と国内外における学術活動をより充実する必要があると考え、国内の関連学会との共同企画の学術集会や米国トキシコロジー学会免疫毒性専門部会（SOT-ITSS）との交流も継続していきたいと思います。学会の持続的発展を可能とするため、経済的面として運営委員会の回数の削減等による支出の縮減を試みています。

なお、会計報告、4月から翌年3月の期間としています。また、補充役員の任期に関しましては、総会の翌月の10月1日から任務開始とし、任期満了日は正規役員の満了日と同一日とします。

２． 2015年10月から2016年9月までの事業報告

１）2016年の理事会及び総会・評議委員会の開催

諸会議を以下の通り行いました。

・理事会

2016年9月5日に、北九州市、北九州国際会議場にて理事会を開催しました。

・総会・評議員会

2016年9月6日に、北九州市、北九州国際会議場にて総会・評議員会を開催しました。

２）第23回日本免疫毒性学会学術年会の開催

2016年9月5-7日に、北九州市、北九州国際会議場にて、第23回日本免疫毒性学会学術年会を、「社会に実践する免疫毒性学」をテーマとして、年会長：森本泰夫理事（産業医科大学産業生態科学研究所呼吸病態学教授）のもとに開催されました。本学術大会の詳細は、日本免疫毒性学会WEBで、「学術年会」を選択してご参照ください。

３）学会役員の改選

評議員の投票互選により理事候補者を推薦したうえで7月の運営委員会で新理事候補者21名を決定し,総会にて最終承認を得ました。また，新理事の互選により理事長を選出し，総会にて承認を受けました。

４）ImmunoTox Letterの発行

下記の2号の刊行を行いました。詳細は日本免疫毒性学会WEBで、ImmunoTox Letterを選択してご参照ください。

20巻第2号（40号、2015年12月号）、和文版19頁、英文版7頁

21巻第1号（41号、2016年6月号）、和文版12頁、英文版4頁）

５）学会賞及び奨励賞

小坂忠司理事（一般財団法人残留農薬研究所試験事業部）に第6回（2016年）学会賞が、小島弘幸評議員（北海道立衛生研究所生活科学部薬品安全グループ・主幹）に第6回奨励賞が、第23回日本免疫毒性学会学術年会時の総会において授与されました。

６）第24回日本免疫毒性学会学術年会の準備

第24回日本免疫毒性学会学術年会を、年会長：中村和市理事（北里大学獣医学部毒性学研究室教授）のもとで、2017年9月4～5日、青森県十和田市、北里大学獣医学部にて開催する準備が進められました。

７）第25回日本免疫毒性学会学術年会の開催地および年会長の決定

第25回日本免疫毒性学会学術年会を、年会長：野原恵子理事（国立環境研究所）のもとで、2018年9月、茨城県つくば市、国際会議場にて開催することが決定されました。

３．事務局及び諸委員会の活動

以下の活動を行いました。

１）事務局（総務担当：大槻理事）

- 会員の異動、会員数（名誉・一般・学生・賛助各会員及び休会員）の推移と会費納入状況の把握、自動退会（会費未納退会）の整理等 に関する事務
- 名簿作成
- 役員選挙の事務（会計担当：斎藤理事）
- 一般会計及び基金会計に関する事務
- 予算書及び決算書の作成

２）運営委員会（委員長：吉田理事長）

・運営委員会

2回の会合を東京にて開催（2015年12月14日、2016年7月2日）し、会務運営、学術年会や関連学会との共同企画の開催準備等が円滑に進むよう、協力体制を整備し、学会運営上の諸問題の改善について議論しました。従来開催していた4月の会議は経費削減のため中止しました。

３）学術・編集委員会（委員長：野原理事）

ImmunoTox Letter の刊行を上記のごとく（2015年に1回、2016年に１回）行い、学会ホームページに掲載しました。19巻第2号（38号、2014年12月号）からは、メーリングリストにURLを直接記載しアクセスの利便性の向上を図っています。24号より行われている英語版も継続しています。

学術年会において行っているアンケートについて，ニュースレターや学会WEBで公開し，対応できるものについて学術年会において採用することとします。

日本免疫毒性学会事業報告（2015年10月から2016年9月まで） 2016年9月6日

４）広報委員会（委員長：大槻理事）

学会ホームページの定期的な更新を行い、役員人事の変更、学術年会等に関する情報の更新、webのリニューアルも随時行っています。また、SOT/ITSSのnews letter も許可を得て掲載するなど、情報開示の充実にも努めています。バナー広告掲載数の減少を受け、各理事には積極的な勧誘をお願いしています。

Journal of Immunotoxicology のWebに日本免疫毒性学会のバナーを掲載していただき，今後，強調を深める予定です。

会員に対する諸連絡は、mailing listにて行っています。

５）試験法委員会（委員長：久田理事）

本学会内での免疫毒性試験法に関する議論を深める目的で，会員から広く免疫毒性に関する疑問等を募集しており，Q&A形式で取り纏めた回答案について今後の学術年会の**試験法ワークショップ（WS）**において紹介・討論する企画を行っていきます。ただし，第23回日本免疫毒性学会（2016年）のWSではAOPについて取り上げる事としました。

JaCVAM評価会議の委員を長らく務められた牧名誉会員の任期が2016年3月末であり，後任に井上理事（中外製薬）が委員に就かれました。また、筒井理事が，**JaCVAM皮膚感作性試験資料編纂委員会**の委員として参加していましたが，編纂作業の終了とともに委員会も解散しました。

・AOP小委員会（委員長：串間清司評議員（アステラス製薬））

JaCVAMから日本免疫毒性学会に医薬品を対象としたAOP（Adverse Outcome Pathway、事例研究の文献調査書）の作成依頼があり、試験法委員会に8名からなる小委員会（委員長：串間評議員）を設置して対応しています。検討化学物質として既知のFK506(タクロリムス)について2016年3月末に中間報告書，4月末に英文報告書を提出し，8月末にAOP Wikiへの登録を終了しました。その後，内部・外部レビューを受けています。

６）国際化委員会（委員長：中村理事）

海外からDr. Victor J. Johnson（Burleson Research Technologies, Inc.）の第23回学術年会への参加が、第23回学術年会事務局の企画によってなされました。

2016年3月の第55回米国トキシコロジー学会（SOT）年会（New Orleans)では，SOT-ITSS提案のテーマ「被災地における免疫毒性」が採択され，米国側ではHurricane Katrinaの被害を，日本側では東日本大震災と津波被害・福島原発事故被害についての報告が行われました。本学会から，会員ではありませんが，吉田光明教授（弘前大学被爆医療総合研究所）を派遣し，福島原発事故後のFISH法によるリンパ球放射線影響について講演していただきました。

2017年3月の第56回SOT年会（Baltimore）における本学会とSOT-ITSSの共同提案シンポジウムは，本学会側の斎藤理事とSOT-ITSS側のDr. Bussiere J. (Amgen)により，「代謝および免疫関連臓器としての皮膚～医薬品開発と安全性評価への含意～」をテーマとして実際されます。

2018年3月の第57回SOT年会（San Antonio）は，SOT-ITSS側からテーマの提示があり，吉岡靖雄先生（大阪大学大学院薬学研究科毒性学分野）に派遣の打診をしました。

７）学会賞等選考小委員会（委員長：手島理事）

2015年12月1日～2016年2月末日に学会賞及び奨励賞の推薦受付が行われ、その後，選考が行われました。その結果、第6回学会賞として小坂忠司理事（一般財団法人残留農薬研究所試験事業部）が、第6回奨励賞として小島弘幸評議員（北海道立衛生研究所生活科学部薬品安全グループ・主幹）が選考されました。

８）その他

2016年度日本毒性学会の会長である佐藤雅彦先生（愛知学院大学）より，高野理事の特別講演を合同特別講演として行いたいとの打診があり了承，実施されました。

東北大学で行われる，MITA (Multi-Immuno Tox Assay) 法のバリデーション開始の ためのキックオフ会議に，本学会を代表して井上理事（中外製薬）が参加しました。

４．2015年度（2015年4月1日～2016年3月31日）会計報告

１）通常会計

別紙のとおり

２）基金会計

別紙のとおり（個人的な寄付、学術年会返納金等は通常会計から分離して基金会計として管理しています。）

2015年度決算（案）

日本免疫毒性学会　2015年度　会計報告（案）

通常会計　（単位円）

収　入

科　目	予算	決算	備　考
前年度（2014年度）繰越金	402,118	402,118	会計管理分263,651円、事務局管理分138,467円
2015年度会費	1,492,000	1,566,000	内訳(一般:150人×8千、過去年度45人（19人）×8千、学生:3人×2千
ホームページ・バナー広告	180,000	120,000	2社×2期×3万円：120,000円
AOP作成費（2014年度分）	500,000	500,000	JaCVAM・小島先生より学会に委託
AOP作成費（2015年度分）	500,000	500,000	JaCVAM・小島先生より学会に委託
雑収入	850	402	サンメディア著作権料162円、銀行預金利子240円
収入合計	3,074,968	3,088,520	

支　出

科　目	予算	決算	備　考
第23回学術年会（北九州）運営費	600,000	600,000	2016年度年会長：森本先生（北九州）
第55回SOT年会派遣助成	250,000	100,000	2016年3月　ルイジアナ州ニューオーリンズ（被派遣者：吉田先生）
会議費	300,000	437,159	会議費（委員交通費、吉田理事長、大槻委員、高野委員、森本委員が遠方のため）
通信費	70,000	66,870	切手・葉書、レターパック、電話
News Letter 製作費	140,000	43,200	1号分（Vol. 20, No. 2 より業者委託せず）
事務費	150,000	157,204	文具、振込料金、事務局旅費、アルバイト代、郵便振替用紙印刷等
ホームページ作成・維持費	330,000	448,400	ホームページ作成・更新、サーバーレンタル料、ドメイン維持費（HP作成費の一部：174,944円）
AOP作成費	500,000	500,000	AOP会議用旅費、委員謝礼用クオカード購入、振込手数料、HP作成費一部（203,056円）
予備費	707,156	735,687	次年度（2016年度）への繰越見込み
支出合計	3,074,968	3,088,520	

基金会計

収入

科　目	予算	決算	備　考
前年度（2014年度）繰越金	1,213,568	1,213,568	
ご寄付	0	20,000	
雑収入	180	205	銀行預金利子（定期預金）
収入合計	1,213,748	1,233,773	

支出

科　目	予算	決算	備　考
学会賞、奨励賞　副賞	110,000	110,000	学会賞（澤田先生）：5万円×1、奨励賞（柳澤先生、黒田先生）：3万円×2
予備費	1,103,748	1,123,773	次年度（2016年度）への繰越見込み
支出合計	1,213,748	1,233,773	

2015年度監査報告

2015年度日本免疫毒性学会

会計監査報告書

2015年度日本免疫毒性学会の会計書類を慎重に監査した結果，適切に処理されていることを確認いたしましたので，ご報告いたします．

2016年 7月 11日
高橋道人
高橋道人 印

2016年 7月 15日
小島幸一
小島幸一 印

2017年度予算（案）

日本免疫毒性学会　2017年度　予算（案）

通常会計

収　入

（単位円）

科　目	予算	備　考
前年度（2016年度）繰越金見込み	1,002,087	
2017年度会費	1,566,000	内訳(一般会員会費納入義務者数197名、2016年4月現在、2015年度実績1,566,000円)
ホームページ・バナー広告	120,000	2社×2期×3万円：120,000円
2017年度分AOP作成費	500,000	JaCVAM小島先生より
雑収入	400	2015年度実績は、サンメディア著作権料162円、銀行預金利子240円
収入合計	3,188,487	

支　出

科　目	予算	備　考
第25回学術年会（未定）運営費	600,000	2017年度年会長
第57回SOT年会派遣助成	100,000	2018年3月テキサス州サンアントニオ
会議費	300,000	会議費（委員交通費、2015年度実績 437,159円、運営委員会を年3回から2回に）
通信費	70,000	切手・葉書、宅配便、電話（2015年度実績68,870円）
事務費	150,000	文具、振込料金、事務局旅費、アルバイト代等（2015年度実績157,204円）
ホームページ維持費	300,000	2015年度実績448,400円、2016年度はホームページの維持のみ
AOP作成費	500,000	2015年度実績500,000円
予備費	1,168,487	次年度（2018年度）への繰越見込み
支出合計	3,188,487	

基金会計

収　入

科　目	予算	備　考
前年度（2016年度）繰越金見込み	1,043,923	
雑収入	150	銀行預金利息（2015年度実績 205円）
収入合計	1,044,073	

支　出

科　目	予算	備　考
学会賞、奨励賞　副賞	110,000	学会賞：5万円、奨励賞：3万円×2
予備費	934,073	次年度（2018年度）への繰越見込み
支出合計	1,044,073	

人事

名誉会員（候補）

推薦１
澤田　純一　理事
(独)医薬品医療機器総合機構

推薦２
小島　幸一　監事
一般財団法人
食品薬品安全センター

次々期年会長（候補）
（2018年）

野原 恵子 理事

国立環境研究所
環境リスク・健康研究センター

理事（候補）　計21名　*新任

井上　智彰　中外製薬（株）富士御殿場研究所　安全性研究部
大槻　剛巳　川崎医科大学　衛生学
小坂　忠司　一般財団法人　残留農薬研究所
斎藤　嘉朗　国立医薬品食品衛生研究所　医薬安全科学部
筒井　尚久　田辺三菱製薬株式会社　開発本部
角田　正史　北里大学医学部　衛生学
手島　玲子　（独）医薬品医療機器総合機構
中村　和市　北里大学獣医学部　毒性学研究室
野原　恵子　国立環境研究所　環境リスク・健康研究センター
久田　茂　あすか製薬(株)　開発研究センター
平野　靖史郎　国立環境研究所　環境リスク・健康研究センター
森本 泰夫　産業医科大学　産業生態科学研究所　呼吸病態学
吉田　貴彦　旭川医科大学　健康科学講座
* 間　哲生　第一三共株式会社　安全性研究所
* 串間　清司　アステラス製薬株式会社　安全性研究所
* 黒田　悦史　大阪大学免疫フロンティア研究センター
* 小島　弘幸　北海道立衛生研究所　健康科学部
* 佐藤　実　産業医科大学　老人老年看護学講座
* 新藤　智子　一般財団法人　食品薬品安全センター
* 山浦　克典　慶應義塾大学薬学部
* 吉岡　靖雄　大阪大学大学院薬学研究科毒性学分野

評議員（候補）
推薦１　会員番号　575
坂入　鉄也　会員
- 田辺三菱製薬株式会社
  創薬本部　安全性研究所

推薦者：　筒井尚久理事
久田茂理事

推薦2　会員番号　639
石井　明子　会員
- 国立医薬品食品衛生研究所　生物薬品部長

推薦者：　斎藤嘉郎理事
久田茂理事

理事長（候補）
2016年10月～
2019年9月

吉田 貴彦 理事

日本免疫毒性学会事業計画（2016年10月から2017年9月）（案）2016年9月6日

１．はじめに

日本免疫毒性学会は、その前身である免疫毒性研究会として発足以来、2013年に第20回記念の学術大会を経て、あらたな歩みを進めています。この間、免疫学と毒性学の双方に係わる異分野の研究者の方々の情報収集と意見交換の場として、極めて学際的な学会として機能して参りました。今後も、その特色である先進性と応用性のある研究動向を維持しつつ、会員にとって有益な学会となることをめざし、環境、食品、医薬品等、人の健康に係る諸要因に対して免疫毒性学的な観点から研究活動を展開し、国民の健康保持増進に貢献して参りたいと考えています。

そのためには、学会の運営基盤の一層の強化と国内外における学術活動をより充実する必要があると考え、国内の関連学会との共同企画の学術集会や米国トキシコロジー学会免疫毒性専門部会（SOT-ITSS）との交流も継続していきたいと思います。また，本学会に期待される学術的専門性に対する責任を果たすべく，本学会が委託を受ける事業について取組んで行きたいと考えております。

学会の持続的発展を可能とするため、経済的面として運営委員会の回数の削減等による支出の縮減を図るとともに、世代交代と人材養成など体制の強化をはかる準備を始めています。

なお、会計報告、4月から翌年3月の期間で行っています。また、補充役員の任期に関しましては、総会の翌月の10月1日から任務開始とし、任期満了日は正規役員の満了日と同一日とすることといたします。

２．事業計画（2016年10月から2017年9月まで）

１）2017年の理事会の開催

2017年9月3日、十和田市、北里大学獣医学部にて開催の予定です。

２）2017年の総会･評議委員会の開催

2017年9月4日、十和田市、北里大学獣医学部にて開催の予定です。

３）第24回日本免疫毒性学会学術年会の開催

第24回日本免疫毒性学会学術年会を、2016年9月4-5日に、十和田市，北里大学獣医学部B棟１F講義室にて，年会長：中村和市理事（北里大学獣医学部毒性学研究室教授）のもとに開催の準備が進められています。

４）ImmunoTox Letterの発行

下記の2号の刊行を予定しています。

21巻第2号（通巻42号、2016年12月号），22巻第1号（通巻43号、2017年6月号）

５）学会賞及び奨励賞の選考

第7回（2017年）学会賞･奨励賞の選考を行います。

６）第25回日本免疫毒性学会学術年会の開催地および年会長の決定

第25回日本免疫毒性学会学術年会を、つくば市，つくば国際会議場にて、野原恵子理事（国立環境研究所環境リスク･健康研究センター／フェロー）を年会長として開催される予定です。期日は、2018年9月が予定されています。

７）第56回米国トキシコロジー学会年会への派遣

2017年3月13-17日に米国Baltimore, Marylandにて開催される、第56回米国トキシコロジー学会年会に、本学会とSOT-ISSの共同企画テーマがシンポジウムとして採択されました。今回，齋藤理事から提案されたテーマ、The Skin As A Metabolic And Immune-Competent Organ: Implications for Pharmaceutical Development and Safety Assessmentが採択されたことから、斎藤理事が本学会から派遣される予定です。

８）日本毒性学会との連携シンポジウムの開催

日本毒性学会との連携により，免疫毒性をテーマとしたシンポジウム等を企画します。

３．事務局及び諸委員会の活動

以下の活動を予定しています。

１）事務局（総務担当：大槻理事）

･会員の異動、会員（名誉･一般･学生･賛助各会員･休会員）数の推移と会費納入状況の把握、自動退会（会費未納退会）の整理等の事務

･名簿作成

･理事選出方法の検討

（会計担当：斎藤理事）

･一般会計及び基金会計に関する事務

･予算書及び予算書の作成

２）運営委員会（委員長：吉田理事長）

2016年12月、2017年6月に開催し、会務運営や学術年会開催準備等が円滑に進むように図ります。

３）学術･編集委員会（委員長：野原理事）

上述のImmunoTox Letter の編集･発行を年2回行い、学会ホームページに掲載するとともに、会員に対してメールマガジンにて周知を図ります。また、英語版の発行も継続して行います。

第7回（2017年）学会賞ならびに奨励賞の授賞のため、学会賞等選考小委員会委員長を指名し、受賞候補者の選考を依頼します。

４）広報委員会

継続して、学会ホームページの定期的な更新を行い、英文ホームページの充実に努めます。また、バナー広告企業を新たに増やすため、積極的な勧誘を行います。

５）試験法委員会

本学会内での免疫毒性試験法に関する議論を深める目的で、第24回学術年会（2017年9月に，十和田市，北里大学獣医学部B棟１F講義室）でワークショップを開催します。

JaCVAMから日本免疫毒性学会が作成依頼を受けた、医薬品を対象としたAOP（Adverse Outcome Pathway、事例研究の文献調査書）について、引き続き作業を継続します。

６）国際化委員会

第24回学術年会事務局及びSOT-ITSSの補助により、第24回日本免疫毒性学会学術年会の特別講演に、年会長とSOT-ITSSの協議のうえDr. Dearman R (Univ Manchester)を招聘する予定です。また、本学会とSOT-ITSSとの交流事業に位置付けられています共同学術企画提案を継続するため，2018年3月11-15日の第57回米国トキシコロジー学会年会（San Antonio）に吉岡靖雄（大阪大学大学院薬学研究科毒性分野）評議員を派遣する予定です。

７）将来構想WG（仮称）

本学会の将来に渡る発展と活性化に向けて，役員体制や事業の企画運営などの見直しも含めた検討を担う委員会の設置を考えています。

４．予算

１）2016年度通常会計予算（2016年4月1日～2017年3月31日）

２）基金会計

基金会計は、学術年会返納金や個人的な寄付等を通常会計から分離して別途会計として管理し、学会賞等の副賞に充当すると共に、通常会計では対応不可能な、しかし、予算措置を必要とする案件に備えるものです。